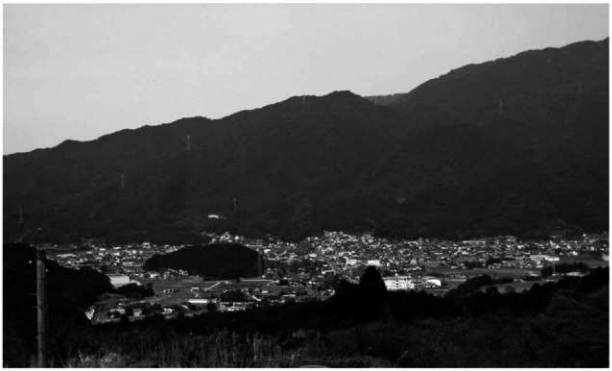
内 野 遺 跡　2

－内野遺跡第４次調査－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1184集



内野遺跡を南西から望む

２０１３

福 岡 市 教 育 委 員 会

うちのいせき

内野遺跡 2

－内野遺跡第４次調査－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1184集

遺跡略号　UCN－4
調査番号　1132

２０１３

福岡市教育委員会

序

福岡市には北方に広がる玄界灘の海を介し、大陸と人、物、文化の交流を絶え間なく続けてきた歴史があります。この地の利を活かした人々の生活を物語る多くの遺構、遺物は地中に残され、調査が進むにつれて明らかにされてきています。その中には、大陸の先進技術、文化を示す貴重なものが多く、学術研究上においても重要視されているところです。

本調査では早良平野の奥に形成された中世村落の一端を確認することができました。一帯は交通の要所でもあるため博多との結びつきも強く輸入陶磁器もこれまで多く出土してきました。

本書はこうした調査成果を収めたもので、多様な開発でやむなく消滅する埋蔵文化財を将来に残していく記録保存の一つです。研究資料とともに埋蔵文化財に対するご理解と活用への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、福岡市道路下水道局の方々をはじめ多くの関係者のご理解とご協力を賜りましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

平成25年3月22日

福岡市教育委員会

教育長　酒　井　龍　彦

例　　言

1．本書は福岡市教育委員会が平成24年度に福岡市道路下水道局西部道路整備課による「主要地方道福岡早良大野城線（内野５丁目）交通安全事業」に伴って、福岡市早良区内野５丁目24－42において実施した内野遺跡第４次調査報告書である。
2．発掘調査および整理・報告書作成は令達事業として実施した。
3．調査は荒牧宏行が担当し、遺構実測図は荒牧が作成した。
4．本書に掲載した遺構写真は荒牧が撮影した。
5．本書に掲載した遺構実測図の浄書は樋口久美子、荒牧が行った。
6．本文は荒牧が執筆した。
7．本書掲載の実測図、写真のほか調査で得られた総ての資料類は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵、保管され、活用されていく予定である。

凡　　例

1．本書に用いた方位・座標は世界測地系による。

遺跡名	内野遺跡	調査次数	４次	調査略号	UCN－４
調査番号	1132	分布地図図幅名	内野(S17)	遺跡登録番号	0803
開発面積	5,400㎡	調査面積	21㎡	事前審査番号	20－１－45
調査期間	20111108～20111118		調査地	福岡市早良区内野５丁目24－42	

目 次

Ⅰ　はじめに …… 1
　1．調査に至る経過
　2．調査体制
Ⅱ　位置と歴史的環境…… 2
　1．地形
　2．歴史的環境
Ⅲ　調査の記録 …… 4
　1．基本層序
　2．遺構と遺物
Ⅳ　おわりに－発掘調査からみた中世村落－…… 6

Ⅰ　はじめに

１.調査に至る経過

福岡市教育委員会は福岡市道路下水道局道路整備部西部道路整備課（現建設部西部道路課）より同市の早良区内野５丁目地内において歩道を設置する「主要地方道福岡早良大野城線（内野５丁目）交通安全事業」に伴う埋蔵文化財の有無についての事前調査依頼を平成20年８月19日付で受理した。これを受けて文化財部埋蔵文化財第１課事前審査係は申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である内野遺跡に含まれていることから確認調査を実施した。その結果、現地表面下70cmで遺構が確認されたことから、記録保存のための発掘調査を実施することで合意となった。平成23年度今達事業として調査を平成23年11月８日から11月18日まで実施し、翌平成24年度に資料整理および報告書作成を行うことになった。

２.調査の組織

以下の組織体制で調査・整理を行った。

【調査委託】　福岡市道路下水道局建設部西部道路課
【調査主体】　福岡市教育委員会
【調査総括】　文化財部埋蔵文化財第２課（現・埋蔵文化財調査課）課長　田中壽夫（23年度）宮井善朗（24年度）同課調査第1係長　米倉秀紀（23年度）常松幹雄（24年度）
【庶務】　埋蔵文化財第１課（現・埋蔵文化財審査課）管理係長　和田安之　管理係　井上幸江（23年度）古賀とも子（24年度）
【事前審査】　埋蔵文化財第１課（現・埋蔵文化財審査課）事前審査係長　宮井善朗（23年度）加藤良彦（24年度）同課事前審査係主任文化財主事　加藤良彦（23年度）佐藤一郎（24年度）同課事前審査係文化財主事　今井隆博（23年度・24年度）
【調査担当】　埋蔵文化財第２課（現・埋蔵文化財調査課）主任文化財主事　荒牧宏行
【発掘作業員】伊藤絹子　川崎京子　御園生宏治　緒方国光　永松顕義

なお、文化財部は組織改編のため平成24年４月１日付で教育委員会から経済観光文化局に移管した。

Ⅱ　位置と歴史的環境

（１）地形

西側の曲淵方面から渓谷を形成して流下してくる室見川は東側の小笠木方面から椎原川、大谷川（山田川）、長尾川を集めた小笠木川と内野付近で合流する。さらに室見川は早良で大きく蛇行し早良平野の西側を限る丘陵麓の東入部付近を直線的に北流する。

早良平野はこの室見川の営力で形成された扇状地と三角州からなる。形成された扇状地の地形は扇頂近くの脇山、内野地区と平野が大きく開けていく入部地区は大きく異なる。

脇山、内野地区は上記の河川のほか支流が多く北流し、それに沿って沖積地に細い谷部が形成されている。沖積地は比高差が大きい棚田状となり、峯付近では丘陵が派生し、先端部には低位段丘面が形成されている。

入部地区では傾斜が緩やかな沖積地となり、南北に細長い砂礫台地の低位段丘面が多く形成され、間の谷部に河川が流下している。

（2）歴史的環境

交通について

上記の室見川と小笠木川の合流点は交通路の要所でもあった。近世初期の慶長御国絵図（慶長十年（1605））には室見川の渓谷に沿って内野村、峯村、曲淵村、飯場村に向かいそこから三瀬峠を通り肥前に通じたと考えられる街道と椎原川に沿って内野村近くを通って西村、椎原村、板屋村を経て肥前に通じた街道が描かれ、その間にも別に肥前に通じた２つの街道があった。

これらの街道を通って近世では飯場峠を越えて筑前から肥前へは魚や塩、肥前から筑前へは米や木炭が多く運ばれたという。また、中世においても博多の貿易品や年貢米などが運搬されたとみられる。

領地支配について

史料からの概要を吉良国光　『背振山の所領支配と村落　―筑前国早良郡脇山を中心として―』「九州史学」　88・89・90号）1987、「角川日本地名辞典　40福岡県」角川書店　1988、「福岡県の歴史」山川出版社　1997、「日本歴史地名大系第41巻　福岡県の地名」平凡社　2004に基づいて記す。

入部地区には安楽寺（太宰府天満宮）領の荘園が仁安三年（1168）以前に成立していたとみられている。内野は観応二年(1351)には安楽寺の入部荘に含まれていた。江戸時代の写しによるが脇山は嘉保三年（1096）に大宰府の府官である大蔵種房が先祖相伝の私領を背振山に施入したという。その領地は現在に遺称する広瀬、長峯付近で限られた脇山周辺の横山六十参町となっている。また、この中には峯三町も含まれている。元徳二年（1330）、建武二年（1335）の史料には「脇山院」と称され、正和四年（1315）の史料からは背振山上宮東門寺によって脇山に現地支配のための「政所」が置かれていたことがわかる。「脇山院」は天文廿年（1541）以降の史料からは記されず、脇山は一村の地名となり、背振山領の総称として「横山六十参町」が用いられる。

15世紀半ばになると武家領化が進み、嘉吉三年（1443）には少弐教頼が庄崎彦三郎の脇山三町分地頭職を安堵し、宝徳二年（1450）には同じく少弐教頼が入部庄内田地二十町を庄崎治部少輔に宛行った。文明十年（1478）、大内政弘は少弐政尚を打ち、早良郡支配の拠点を肥前に通じた交通の要所でもある荒平城に決め、早良郡代を置いた。その後、大内氏滅亡後は大友氏が領有し、天文二十二年（1553）前後に被官した小田部氏が荒平城城督となり早良郡を支配した。小田部氏は天正八年（1580）、入部庄内十町を中牟田三河入道に宛行うなど郡内の土地を武士に給与する一方、脇山一帯の背振山東門寺領の横山六十参町を横領した。しかし、天正七年（1579）に肥前から侵入してきた龍造寺氏によって荒平城は落城した。

村落構造と「惣村」、「惣郷」の形成について

天文十七年（1548）の史料に「廿五名御百姓衆」の文言から二十五の名の共同体である「惣村」が形成され、小領主が指導していたと考えられている。また、別の史料から「寄合中」とよばれる農民の結合体や先述の横山六十参町の結合体を想起させる「六十三丁御老中」という文言から上位の結合体である「惣郷」の形成が推測されている。

同じく早良郡内で天文十三年（1544）には入部庄内の五ヶ村が惣村を形成し共同の用益地としていた龍山の権利をめぐって聖福寺と争いが起こった。

このような「惣村」、「惣郷」の形成がどの時期まで遡るのか史料からは明確ではない。

田地の所有関係について戦国期以降、背振山東門寺領では背振山東門寺　―　□□坊（「地主」や「領主」と呼ばれる）―　小領主（「地主」、「作人」と呼ばれ下作職を所有、百姓層もみられる）という重層関係が見出されるという。その後、坊の支配が村や名単位で行われ、田地の下作職の集積、

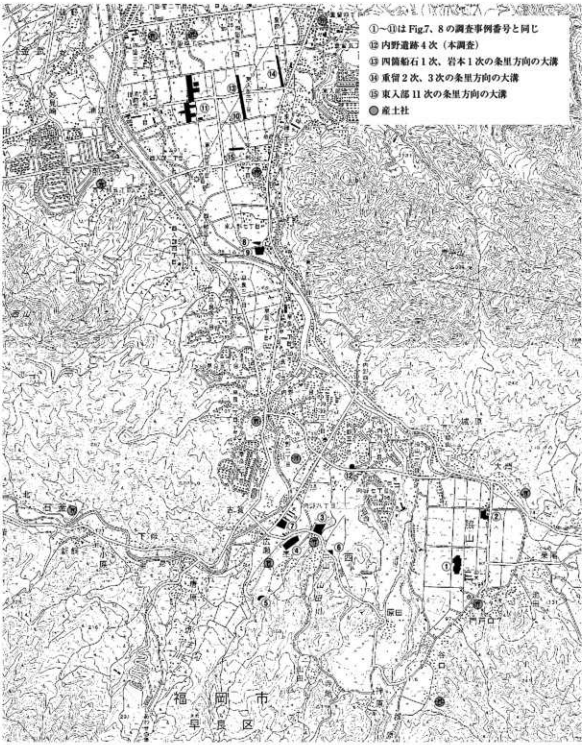


Fig. 1　周辺遺跡調査地点分布図（1 /30,000）

地主化によって一円支配化が進んだ。

Ⅲ　調査の記録

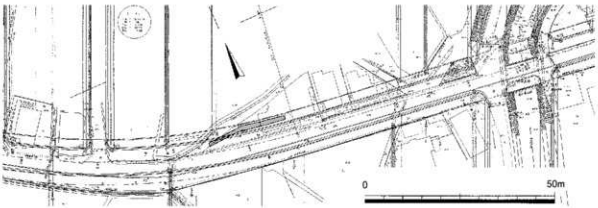


Fig.2　内野遺跡第４次調査位置図（1/1,000）

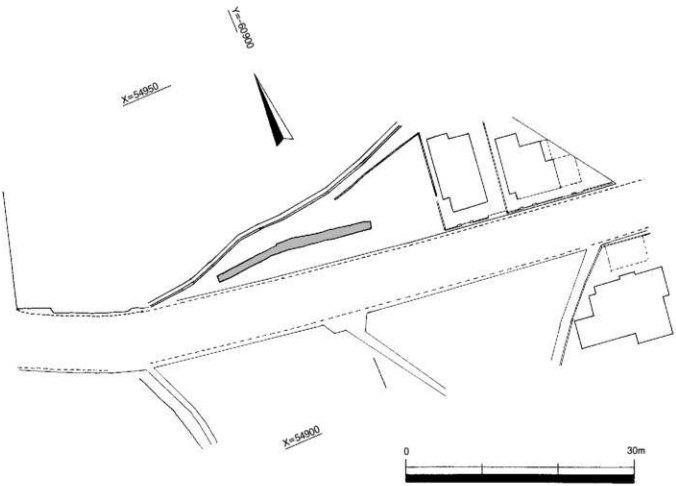


Fig.3　調査区位置図（1/500）

1. 基本層序

クラッシャー、真砂土の客土下に層厚15cm程度の耕作土が堆積し、その下層が遺構面である明黄褐色粘質土となる。部分的にこの上層に無遺物に近い暗褐色土（土層aの４層）が部分的に堆積する。柱穴の遺構面となった明黄褐色粘質土は若干の土師器片や黒曜石を含む包含層となっている。さらに下層には無遺物層の暗褐色粘土、砂質の灰白粘土、グライ化した淡青灰砂質土の層序で堆積している。

2. 遺構と遺物

遺構は柱穴が４個検出された。歩道の一部の調査で小面積であるため、掘立柱建物の時期、構造や

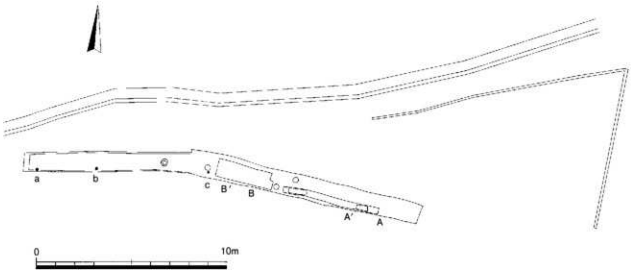


Fig.4　遺構分布図（1/200）

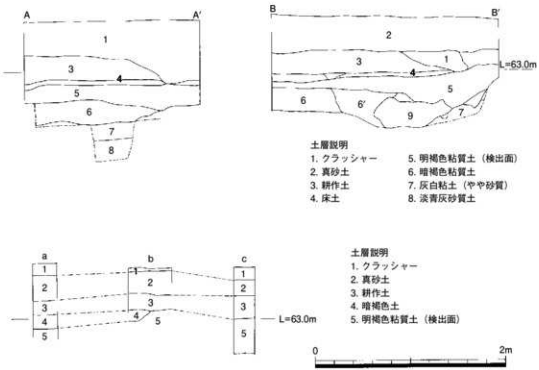


Fig.5　調査区土層図（1/40）

集落の範囲等は判断できないが、周辺の調査や以下の章で記すような中世村落が検出されていること、また立地や層位から中世の可能性が高い。

Ⅳ　おわりに
―発掘調査からみた中世村落―

Ph.1　西半調査区全景（東から）

Ph.2　調査区内土層（A―A'）

Ph.3　調査地点から荒平城を望む（南西から）

ここでは発掘調査で判明した内野遺跡周辺の北は清末遺跡、南は脇山遺跡の中世村落の状況を概観する。調査事例は圃場整備に伴うもので、未だ面的な広がりで把握することができないが概ねの傾向を記すことにする。

既述した通り南北で地形が大きく異なり、南側の傾斜が大きい内野遺跡から脇山遺跡にかけての一帯と北側の平坦な南北に細長い低位段丘面に遺跡が立地した入部地区に分けられる。中世における領地支配もほぼ地形に即して広瀬から脇山にかけては12世紀以降に背振山領であるのに対し、内野、入部は12世紀後半以前に成立した安楽寺（太宰府天満宮領）領の入部庄であった。しかし、内野より北西側の長峯は先の嘉保三年（1096）の施入の範囲に入っていたので、長峯、内野一帯は入部庄と背振山領が錯綜していた可能性がある。

発掘調査事例から中世の集落（居住地区）をみると南側の脇山Ａ遺跡、峯遺跡、内野遺跡、広瀬遺跡では12世紀代以降の集落が検出されているが、11世紀に遡る遺構、遺物は現在までのところほとんどみない。また、脇山、内野周辺の沖積地と丘陵、段丘部の峯遺跡では集落の掘立柱建物の状況が異なる。

脇山Ａ遺跡５次Ｃ地点①では居住区を区画する溝は無く掘立柱建物が散在して検出された。それに対し、脇山Ａ４次第12地点②では掘立柱建物や柱穴の密度は高くないが、水路に限られた居住区内に青磁椀を副葬した土壙墓や鍛冶炉が検出され、５次地点より上位階層の居住区の可能性がある。

峯遺跡は比高差の大きい段状となっているが、周辺の沖積地からは一段と高い。１次③、２次２区④で12世紀から14世紀前半代までの集落が検出されているが、柱穴や掘立柱建物が集中する範囲（ユニット）がみられる。第２次２区は尾根線が削平された可能性があり、さらに広範囲に密度高く広がっていたとみられる。周辺の沖積地と比較し洪水から免れる優位な自然条件に起因し、集中度が高く存続期間が長かった可能性がある。第２次５区⑤では14世紀後半から近世までの遺物が出土する集落が検出された。１次、２次区２の調査区よりさらに高位置にあり、明治まで形成されていた谷部の峯村の近くに位置している。

内野遺跡では広範囲に集落を検出した事例は無いが、丘陵の尾根先端に位置した２，３次Ａ区⑥で集落の一部が検出された。近接した南西谷部の位置に中山の集落がある。北側の段落に幅４ｍの濠で

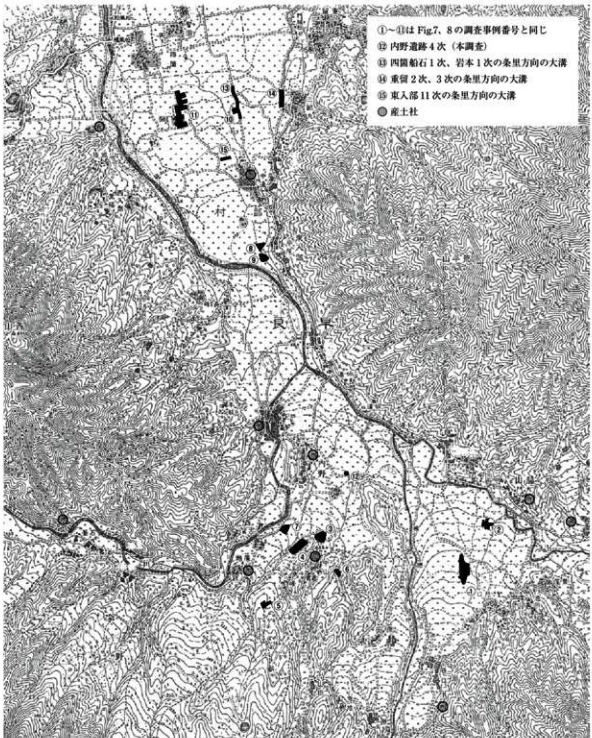


Fig.6　周辺遺跡調査地点分布図（明治33年　1/30,000）

限られた中に掘立柱建物や土壙が検出された。12、13世紀代の土師器や陶磁器が主に出土しているが、濠から出土した足鍋や土壙から出土した土師質の擂鉢は時期が下るとみられる。

広瀬１次⑦は室見川の右岸近くの沖積地に位置する。方形に巡る可能性がある幅４ｍの溝が検出され、陸橋を設けている。溝の内部から２×３間の掘立柱建物１棟と土器焼成壙が検出された。時期は12～13世紀と考えられる。比較的、上位の階層の屋敷地である可能性がある。

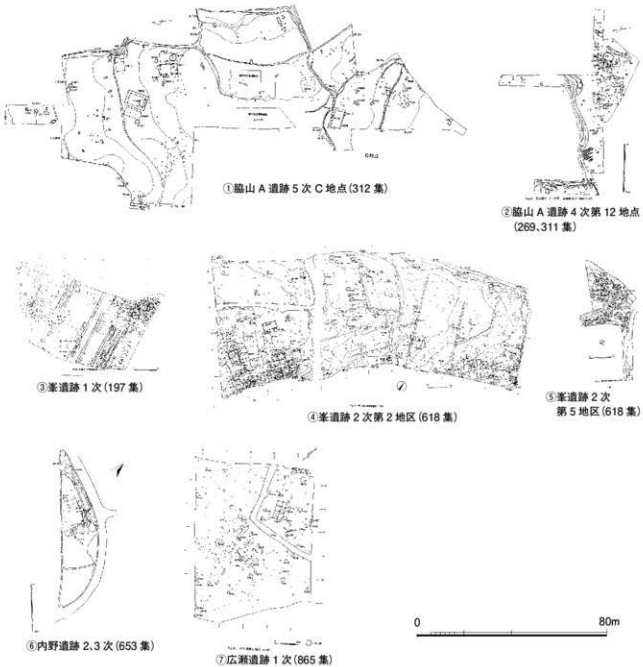


Fig.7　周辺中世村落遺構配置図１（１/1,600）

北側の入部遺跡周辺では11世紀からの中世集落が検出されている。７次45区⑧と10次53区⑨は東入部遺跡の南端に位置し、室見川が西側へ大きく蛇行し11世紀代には埋没したと考えられる旧河川との間に挟まれた低位段丘面に立地している。この調査区では11世紀から12世紀代には廃絶されたとみられる中世集落が検出された。また、古代の居館とみられる遺構も検出され、晩唐三彩、越州窯系陶磁器、緑釉陶器など上品の遺物も出土している。奈良時代に築造し、中世集落が形成された11世紀には埋没したと考えられている幅２ｍで条里に沿った方向で直線的に延長していく溝も検出された。

12世紀代になると入部や北側の田村遺跡で条里に沿った大溝が築造されるようになる。これによっ

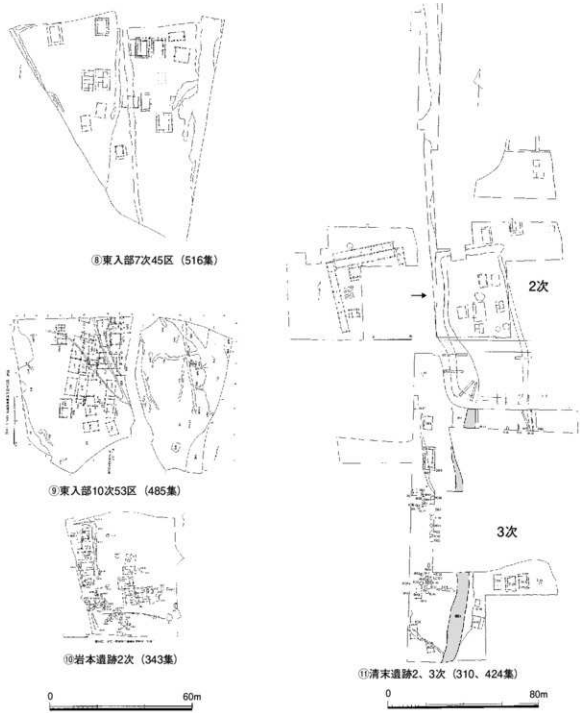


Fig.8　周辺中世村落遺構配置図２（１/1,600、１/2,000）

て耕作の集約化が進行し、集落も再編されたと思われる。上記の７次45区、10次53区の集落が12世紀前半くらいまでに廃絶されたことはこの動向に則した可能性がある。

清末遺跡第３次⑪では大きく３時期の遺構が検出された。12世紀中頃にコの字形に長舎で囲む律令期の官衙的な建物が検出された。その後、12世紀後半になると条里に沿った大溝が掘削され、掘立柱建物が建ち並ぶ集落が形成された。さらに14世紀初頭になると条里方向の大溝は埋没し、大溝と重複し幅３～５ｍの濠が内法で東西30～35m、南北75mの方形区画を囲むが14世紀後半には廃絶されたと考えられている。12世紀代と考えられている官衙的な施設は類例を待たなければならないが、「政

所」のような荘園の現地支配機関も考えられないだろうか。なお、近接した字名に「政留」がある。また、この官衙的な施設と方形区画溝に囲まれた居館的な施設が時期は異なるが近接していることから関連性についても留意したい。この館にどのような階層が居するものか不明であるが在地の荘官に任ぜられた小領主クラスも考えておきたい。

入部遺跡の東に近接した岩本遺跡第２次調査⑩では３期に分けられ、１期（12世紀前半）は浅い溝で区画された内部に主屋と納屋のような２棟の掘立柱建物が近接して建ち並ぶ状況がみられる。２期（12世紀中頃～後半）になるとⅠ期の建物の位置に棟の方向を変えて１棟増やした建物群と鈎形のプランを呈した溝に区画された内部に４棟の建物が整然と並んだ建物群が形成される。３期（12世紀～13世紀）になると主な遺構は焼土壙群となり集落は廃絶されている。この事例も12世紀後半代に条里プランに基づいた耕地の集約化、編成が進められ、屋敷も移転した可能性がある。また、主屋と離れた位置に溝で区画され並列した同規模の掘立柱建物の関係は「下司」、「上層百姓」などの荘官クラスと隷属して雑役や土地開発などを担った「所従」の関係を示している可能性がある。

以上、入部地区の集落の特徴として、11世紀後半代から条里プランに沿った集落がみられるが、12世紀後半代に条里プランに沿った大溝を築き大規模な潅漑や耕地の集約化が進められ、屋敷も再編成される地区がみられた。その後、14世紀初頭以降に濠に囲まれた居館が出現したが、この時期以降、一般的に集村化が進むといわれている。

14世紀後半以降の集落は集村化が進み、脇山・内野地区、入部地区ともに峯遺跡２次５区にみられるように、おそらく近世に継続した集落の付近に形成されたものと考えられる。この近世の集落は丘陵麓や丘陵谷部に多くみられ、近くに産土神社が祀られている。その中でも脇山の大門に祀られた横山三所権現は中核を占め横山郷八村の総社で脇山、小笠木村の産土神となっている。また、吉良氏は先の論考で脇山地区の水利と産土社が密接な関係をもつことを指摘している。

焼土壙について

入部、脇山一帯では木炭生産の窯と考えられる焼土壙が多数検出された。時期は12世紀以降と考えられている。周辺の山林から薪を調達し生産したものであるが、居住区の近くでも多く検出され、痩せて休耕した田地（片荒）においても生産された可能性がある。その生産は領主に年貢や公事として貢納され、また交易品として流通したものと考えられる。先述のように近世においては街道を通して肥前から筑前へ木炭が多く運ばれたという。

報告書抄録

ふ り が な	うちのいせき２
書　　名	内野遺跡2
副　書　名	内野遺跡第4次調査
シ リ ー ズ 名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第1184集
編 著 者 名	荒牧宏行
編 集 機 関	福岡市教育委員会
所　在　地	〒810-8620　福岡市中央区天神1－8－1
発 行 年 月 日	2013年３月22日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
うちのいせき 内野遺跡 第４次	ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 うちの 内野５丁目 24－42	40132	0803	33°29′ 49″	130°20′ 34″	20111108 ～ 20111118	21	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内野遺跡	集落	中世	柱穴	土師器	中世集落の掘立柱建物とみられる柱穴が散在していた。

要約	内野遺跡は、早良平野の扇頂近くに位置する。交通の要所でもあり、中世のほか縄文、弥生の集落も今までに検出されている。本調査地点は沖積地に位置し、中世の掘立柱建物を構成する柱穴が検出された。今までの調査からみると 12 世紀代以降と考えられる。なお、本報告書では脇山から入部にかけての主な中世集落をまとめた。

内　野　遺　跡　2

－内野遺跡第４次調査－
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1184集

2013年（平成25）年３月22日

発　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神一丁目８－１
☎（092）711－4667

印　刷　大野印刷株式会社
福岡市博多区榎田２－２－65
☎（092）414－1515